

## 1. 教育の責任

主な担当科目は、保育士資格及び幼稚園教育教諭免許の取得に関わる「保育内容・方法理解に関する科目」、「教育実践に関する科目」である。担当科目は以下の通りである。

### 1) 教育実習 (1・2年)

保育現場で働くことになる学生に対し、子どもとの関わり方や、教育者としての在り方、幼稚園の仕組みや制度、基本的なマナーなどについて学ぶ科目である。実習に関する事前指導、事後指導も行う。

### 2) 子どもの生活と音楽遊び I・II (1・2年次)

生活の中で子供と音楽が関わる場面は数多く存在する。保育者として保育施設等で働く場合ももちろんそうである。保育現場において「子どもの歌」を主な材料として子どもの歌の弾き歌いや音楽遊びを行うことのできる知識・技術を身につけることを目的とする。また、ピアノの技術的向上を可視化するため、カワイピアノグレードを導入している。

### 3) 保育の展開技術 I・II (1・2年次)

保育内容において、より効果的な音楽活動を行うための技術(ピアノやピアノカ、歌、アンサンブル等)や知識について学び、自ら音楽活動を展開していく力を身につける科目である。

### 4) 子どもの生活と遊び発表演習 I・II (2年次)

保育実践に必要な身体・音楽・造形に関する表現の基礎を学び、最終的には一つのミュージカルを創り上げ、公演を行う。これにより学生は、卒業後保育現場にて総合的な創作活動の経験を活かすことが可能となる。

その他、1年生のアドバイザーとして、1年生の初期に学生に対し個人面談を行い、学校生活に対する不安や疑問点について早期に把握し対応した。

## 2. 教育の理念

保育の現場では「子どもに共感する」「子どもの気持ちを理解する」といったことが重要である。さらに、子どもの気持ちを考える際に、子どもの言動や変化などに対し、鋭敏に反応し、それらを材料として判断を行う必要がある。この判断については、保育に対する知識が必要となる。また、子どもとのかかわり方においては、知識だけではなく、技術も必要となる。そして、実際に子どもの様子を見て知識や技術を活かしつつかかわり合い、また新たな変化を観察し様々な対応をとる、といったように、保育の現場では常に「新たな発見」と、「そこからの学び」が循環している。したがって本学においても、観察し、共感し、行動し、反省したのちに学ぶ、というこの一連の流れを通して「子どもに共感し、自ら学ぶ保育者」を育てる所存である。

### 3. 教育の方法

- 1) 実習指導においては知識や技術について学ぶことはもちろん、実習前の目標設定や、実習後の自己評価等を行い、「ただ実習に行く」のではなく「実習を通した学び」を重視している。
- 2) ピアノ指導については、保育現場の実際を考慮し、より実践的な（例えば簡易伴奏の方法等）知識や技術を学ぶことで、現場に出た際にすぐに活用できることを重視している。また、2年次にはより音楽的・技術的側面を重視することで、将来子どもを前にした際に創造的な表現活動を行うことができるよう指導を行っている。

### 4. 教育の成果

- 1) 授業評価アンケートにおいて、すべての項目で評価が4.5を超えていた。
- 2) 保育の展開技術Ⅱにおいては、51期生全員がカワイピアノグレードの級を取得することができた。また、11級以上を取得した学生も過去最多となった。
- 3) 教育実習において、学生は授業や実習を重ねるごとに、子どもとのかかわり方や保育者の仕事に対する理解を深めることができていた。

### 5. 今後の目標

- 1) 教育実習、保育所実習の前に子どもと関わることに慣れる意味合いも込めて、保育体験活動を年4～5回実施できるように調整を行う。
- 2) 音楽関連については、入学前にピアノの習熟度（初心者、経験者等）を調査し、その調査結果から、より個別のレベルに寄り添ったピアノ指導を目指す。
- 3) 子どもの生活と音楽遊びⅡにおいて、1年次の音楽関連の成績が良いにも関わらずカワイピアノグレードの取得級の低い学生が数名見られたため、1年次の成績等を参照しつつ取得可能な級を選択していく必要がある。

### 6. 根拠資料

- 1) シラバス
- 2) 課題提出(実習指導内における指導案や目標設定シート、実習後の自己評価シート等)
- 3) 課題チェックシート(音楽関連)
- 4) カワイピアノグレード取得結果
- 5) 成績評価分布
- 6) 授業評価アンケート